



3000人の楽しい町プロジェクトチーム かわら版 へ 第 1 号

地域の課題は山ほどあれど…

— 目 次 —

- ☆3000人の楽しい町
プロジェクトチームとは？(1ページ)
- ☆雲南ゼミ報告 (2～3ページ)
- ☆住民さんインタビュー
メンバー感想コーナー (4ページ)

まちの人の“声”が“形”になれば
江府町は**住みやすくなる**
たくさんの“アイデア”が集まれば
江府町は**楽しくなる**

この“3000人の楽しい町プロジェクトチーム”は“住民目線”“当事者意識”“挑戦”の3つの柱で、江府町の住民さんと一緒になって考え、学び、実行していきます！

ある町になるのではないでしょうか。

もしも、今住んでいる皆さんが楽しく暮らすことができる町になれば、たくさんの人に笑顔が生まれ、どの町にもない魅力ある町になるのではないのでしょうか。

日本全国の中山間地域では人口減少や少子高齢問題、また地域の担い手不足・・・など様々問題を抱えています。

ここ江府町も例外ではなく、人がたくさん暮らし、活動も盛んだった数十年前と比べると、少しさみしくなったなと思うこともあると思います。

3000人の楽しい町
プロジェクトチームとは？

**プロジェクトチームの
サポーターを募集しています！！**

3000人の楽しい町に向けて、プロジェクトチームへ叱咤激励を送っていただけるサポーター(年齢・性別問いません!)を募集しています。

内容：かわらばんの送付、意見交換会の案内通知、
普段の暮らしで気づいたことや町の人の声を私たちに教えてください！

詳しくは、サポーター申込書をご覧ください。

目指せ！サポーター100人！！

【目標】平成29年3月31日までに達成！

12人

平成28年12月1日現在

特集！ 島根県雲南市で学ぶ “住民主体”のまちづくり

江府町をもっと盛り上げたい、人口が少なくても楽しい町をつくりたい、という思いを持った役場の若手職員5人と、リーダーである管理職1人で構成されるプロジェクトチーム。

おとなり島根県雲南市で「雲南ゼミ」なるものが開催されると知ったわたしたちは、雲南市こそが「地域づくりの最先端」だという評価に興味を持ち、ぜひ参加してみようと思い立ちました。

そこで味わった体験は、まさに衝撃の連続！「地域づくりってこういうものなのか。地元で生きているってこういうことなのか！」と、3日間の研修を通して得た知識、経験は大きな糧となりました。

江府町にも、雲南市のような改革の風を吹かせたい。いや、雲南を越える新しいものを生み出したい！

たった6人という小さなチームの中に、大きな目標が浮かび上がってきました。しかし、実現するにはもっと多くの力が必要です。住民の皆さんにも江府町の現状を知っていただき、また他の自治体の取り組み紹介を通して、わたしたちといっしょに江府町の未来を考えてほしい——そのために、わたしたちは町内の各集落を回って住民参画の「芽」を落としてゆくことにしました。

今回は、新町2丁目の公民館で、雲南ゼミで学んだことの報告と、江府町でできることなどの意見交換会を実施しました。

雲南市の取組み ①地域自主組織とは？

雲南市は平成16年に合併して誕生しました。合併に際して、雲南市は「地域自主組織」の設立を推進しました。従来の集落単位での自治では、これからますます深刻になる人口問題のために機能を維持できないと危惧したためです。そこで、おおむ

ね小学校区単位で集落を越えた地縁組織の設立を目指しました。複数の自治会が属するだけでなく、営農組織や文化サークル、PTA、女性グループなど地域にある多様な組織がひとつとなつて、地域の問題を地域で解決することを目指したのです。

地域自主組織の大きな利点は、「1世帯1票制」から「1人1票制」へと考え方を変えたことで、これまでより多くの住民の考えを汲み取ることができるようになりました。

かつての集落単位では、世帯主など家族の中でも決まった人だけが会合に出ていました。それでは、会合でどんな話合いが行われたのか、ほかの家族が知ることができません。意見や要望があるにも関わらず、それを提案する機会がないために、一部の人の意見のみが尊重される傾向にありました。これでは、せっかくのいい意見を持っていくとしても、地域づくりに関わることが難しくなってしまうのです。

一方、地域自主組織では、自

分たちで事業を決めます。地域の課題や特性から、何が 필요한のか、どのような取り組みが効果的か、住民自らが考え、実践します。それは従来の集落単位での活動よりも幅広く、生涯学習や社会教育、地域づくり、福祉事業など、さまざまな分野に及んでいきます。そのため、若男女問わず、住民一人ひとりが地域の活動に参画する機会があるのであります。

それはすなわち、すべての住民が地域づくりの方向性の決定に関わることができるということを意味します。地域自主組織の基本は、様々な世代の住民がしっかりと話し合いを行うことにあります。その上で、組織で行う事業を決定し、それぞれの部会が担当することになります。「住民の合意する力」こそが、地域自主組織が育む最大の恩恵であり、住民自治のための最も強い力となるのです。

地域自主組織の取り組みについて、報告会では2つの地域の事例を紹介しました。

② 「なごみと共育のまち」 西日登地区

雲南市の中でも中山間部に位置する、かつて「生涯学習のメッカ（聖地）」と呼ばれた西日登地区では、神樂をはじめとした伝統行事が今も盛んに行われていました。そこには、子どもを教えるとともに大人や高齢者もいっしょに学ぶ「共育」を目指す姿がありました。

西日登地区には、三大祭りと呼ばれる行事が受け継がれています。お盆の時期に住民やそこを故郷とする人が集まり、神事や花火などを楽しむ「高津公園祭り」。生涯学習発表の場と文化祭を兼ねた「和みの郷ふれあい祭り」。地域のために尽くしてくださった高齢の方へ感謝を示し、長寿を祝う「敬老祭」。どの祭りにも共通しているのは、子どもから大人まで、参加者全員に活躍の場があることです。神事では子どもが官司姿で祝詞を奏上し、学習発表では年齢を問わず劇や踊りなどを披露します。ただ子どもを育むだけでなく、大

人も子どもと同じ立場になって寄り添うことこそが、西日登の共育の真骨頂です。

西日登では、神樂などの伝統を子どもにも継承させることを重んじています。それは伝統を守ろうとしたからではなく、地域でどうにかして子供を守りたいと考えた結果、大人と子どもがいっしょになって伝統行事を受け継いでゆける仕組みを作り出したのだということが、もうひとつの重要なポイントと言えるでしょう。

② 「消えてたまるか！」 三刀屋地区

人口約二千五百人の三刀屋地区はインターチェンジを中心とした市街地ですが、ほかの地区と同じく人口減少の波から逃れることはできませんでした。地区の全住民を対象としたアンケート調査の結果、ほかに「地域の衰退」という大きな問題が浮き彫りになりました。

これらの課題解決に向けて三

刀屋地区が進めたのが、「世代間交流施設ほほえみ」の整備です。かつて書店だった空き店舗を改装して、世代間交流の場や看護サービス提供など、複数の機能を持った拠点の運営を目指しました。他の組織と比べて珍しいのは、拠点を3者が共同で運営していることです。基本的な運営を行う地域自主組織に加え、

訪問看護事業等を提供するコミケア、就労支援・地域清掃等を提供するエコカレッジとの共同運営によって、多角的な事業の展開を可能としたのです。

その根底にあるのは、「三刀屋地区住民の「消えてたまるか！」という強い想い。今後ますます厳しくなる人口問題に諦めることなく、地域住民が一体となって課題の解決に取り組む。その意識を住民同士で共有できたからこそ、「ほほえみ」設立の最も大きな成果にほかならないのです。

最先端の雲南市に学ぶ

雲南市の現状は、都会の20

年先の状況と同じであるといえます。雲南市の取り組みは、まさに時代の最先端をいつているわけです。

わたしたちが雲南市の取り組みから学んだ最も重要なことは、いま江府町にある資源（くらし、人材、環境など）をどう生かせば江府町が暮らしやすい町になるのか、住民のみなさん自身で考えて実行することにある、という点です。草刈ひとつで考えてみても、町に委託すれば時間がかかってしまいますが、民間団体に委託すれば行政より早く、かつ丁寧なサービスを提供することができるかもしれません。誰が、どのような仕事を担うべきか。それを追及すること、より質の高いサービスの提供を実現する。雲南市の地域自主組織の取組みにならって、江府町の特徴を生かした新しい仕組みを生み出すことが、これからの地域づくりのための大きな力になると感じました

3000人の楽しいプロジェクトチーム公開報告会へ参加された方に聞きました！

あなたにとって「楽しい」まちとは？

- ・みんなの意見が集約できるまち。そしてその意見が実現するまち。
- ・人と人との交流が面白く、深い理解が得られるようになっていけるような環境がある。
- ・家族が幸せで暮らせるまち。
- ・誰でも受け入れてくれるまち。
- ・今の「いいな」と思うことが続くまち。
- ・反対に「嫌だな」が少しでもなくなるようなまち。
- ・住民の声を聞いてもらえるようなまち。
- ・町の特許の商品、ブランド品を出す。
- ・米子に行かなくてもいいまち。飲み屋があるまち。色気のあるまち。
- ・町外の人が楽しめる『場所』があるまち。
- ・町内の人々が色々集まれるところがあれば、いろんな話ができる。
- ・暮らしやすいまち。子どもがいきいきして活気のあるまち。
- ・町全体が家族のようなまち。
- ・みんなが前を向いているまち。積極的に参加する、参加しやすいまち。
- ・集まれる場所があるまち。

プロジェクトメンバー報告

～公開報告会を終えて…～

いい研修に出かけていい刺激を受けると、周囲にもその刺激を広げられる・・・。「熱いうち」に打った鉄が、江府町の楔となる手ごたえを感じました！ (生田志保)	今回の公開会議を終えて、すべてを解決できる特効薬はなく、何度も積み重ねていくことこそが解決につながる道標だと思いました。 (梅林 徹)	今後も様々な場所で会を継続して行い、叱咤激励をいただきながら危機感や未来の可能性について共有する仲間を増やしたいと思います。 (中川敦紀)
まちづくりは住民一人一人の想いが出発点です。多様な意見を出し合い、みんなで考えてみんなで決めて、まちの方向性を作っていきます！消えてたまるか！ (浦部達洋)	初めての試みで不安な面もありましたが、少しでも興味を持ってもらいほっとしました。楽しいまちに向けて住民・企業・行政が一緒になって前に進んでいきましょう。 (仲田裕紀)	皆さんが持つ「なかなか言葉にできない想い」を、公開会議やかわら版を通じて言葉にするお手伝いをします。まずはお話だけでも聞いてみてください。 (谷口宗一郎)

☆江府町ホームページで活動報告をしています☆

HP : <http://www.town-kofu.jp/2/1/2/3000project/>



【発行・編集】

3000人の楽しい町プロジェクトチーム

(鳥取県江府町役場)



鳥取県 Kofu Town

江府町